

第5学年3・4組 体育科学習指導案

令和5年12月14日(木) 6校時

第5学年3・4組(58名)

指導者 永野 佳太

1 単元名 ボール運動「ゴール型」(教材:バスケットボール)

2 単元の目標

- (1) ゴール型の行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができる。 (知識及び技能)
- (2) ゴール型のルールを工夫したり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりすることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) ゴール型に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準	次の運動の行い方を知っていると同時に、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをしている。 ・ゴール型では、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをしている。	ルールを工夫したり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりしている。	運動に積極的に取り組もうとし、ルールを守り助け合って運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。
単元の評価規準	①ゴール型の簡易化されたゲームの行い方について言ったり、書いたりしている。 ②投げる、受ける、運ぶといったボール操作ができる。 ③ボール保持者からボールを受けることのできる場所に動くななどのボールを持たないときの動きができる。	①誰もが楽しくゲームに参加できるように、プレイヤーの人数、コート広さ、プレイの制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 ②味方が受けやすいようにボールをパスすることについて考えたことを他者に伝えている。	①ゴール型の簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ③ゲームを行う場の設定や用具の片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ④ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑥ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。

4 単元の学習計画及び評価計画

時間		1	2	3	4 (本時)	5		
指導内容	知・技		①ゲームの行い方	②パス、シュート	③ボールを持たない時の動き			
	思・判・表					①ルールを選択	②伝える力	
	学・人	⑥場や用具の安全	②ルールやマナー	③役割を果たす	①積極的な取組	⑤仲間との認め合い	④勝敗の受け入れ	
学習活動	0	1 単元の目標を知る 2 チーム分けを行う 3 ビブス着用の仕方、ホームコートを知る 4 準備の仕方を知る ・カゴ、フラフープの置き方 ・動画撮影の仕方 ・移動の仕方 (ドリブル) ・ボールを持つての話の聞き方 5 基礎感覚作りの運動を行う ①準備運動 ②パワーグリップ ③腰まわし 10 回 ④ひざ回し 10 回 ⑤8 の字回し 10 回 ⑥その場ドリブル 20 回 ⑦ランニングドリブル 20 回 ⑧チェストパス人数×5 回 ⑨バウンズパス人数×5 回 ⑩シュート 6 ゲームの行い方を知る 7 試しのゲーム (各チーム 2 試合) を行う (音楽に合わせて行う) ・ドリブルあり ・ハーフコート ・同じ人数 8 片付けの仕方を知る、ふり返しを行う	1 準備運動、サーキット、準備を行う 2 基礎感覚作りの運動を行う ①腰まわし 10 回 ②ひざ回し 10 回 ③8 の字回し 10 回 ④その場ドリブル 20 回 ⑤ランニングドリブル 20 回 ⑥チェストパス人数×5 回 ⑦バウンズパス人数×5 回 ⑧シュート (時間がくるまで) 3 本時の活動を知り、自分のめあてを立てる				3 本時の活動を知り、自分のめあてを立てる	
	10		4 パスのコツを知り、パスの練習を行う ①動画 (ロイロノート) を見てパスのコツを考える ②パスの練習をする ・チェストパス ・バウンズパス ・ショルダーパス ③パスのミニゲームを行う (時間内に何回できるか) 5 ゲームを行う ・ハーフコート ・ドリブルあり ・同じ人数 ①試合Ⅰ赤 (3 組) vs 赤 (4 組) ②試合Ⅱ白 (3 組) vs 白 (4 組) ③試合Ⅲ赤 (3 組) vs 赤 (4 組) ④試合Ⅳ白 (3 組) vs 白 (4 組) ⑤試合の動画を見て、感想を伝え合う	4 シュートの練習を行い、シュートのコツを考える ①シュート練習を行う ②友達の様子を見て、シュートのコツを考える ③ポイントを意識してシュート練習を行う ・腰を落とす、視線、ボールの軌道、両手の場合、片手の場合 5 前時の課題を生かして、ルールを工夫し、ゲームを行う ・ハーフコート ・ドリブルなし ・守りを一人少なくする ・チーム全員がゴールを決めたらボーナスポイント ①試合Ⅰ赤 (3 組) vs 白 (4 組) ②試合Ⅱ白 (3 組) vs 赤 (4 組) ③試合の動画を見て、感想を伝え合う ④試合Ⅲ赤 (3 組) vs 白 (4 組) ⑤試合Ⅳ白 (3 組) vs 赤 (4 組)	4 ボールを持っていないときの動き方の練習を行い、コツを考える ①10 秒 2 vs 1 練習を行う ②友達の様子を見て、コツを考える ③ポイントを意識して 10 秒 2 vs 1 練習を行う ・横に動く、空きスペースを見つけて、パスのタイミング 5 前時の課題を生かして、ルールを工夫し、ゲームを行う ・ハーフコート ・ドリブルなし ・守りを一人少なくする ・チーム全員がゴールを決めたらボーナスポイント ①試合Ⅰ赤 (3 組) vs 赤 (4 組) ②試合Ⅱ白 (3 組) vs 白 (4 組) ③試合の動画を見て、感想を伝え合う ④試合Ⅲ赤 (3 組) vs 赤 (4 組) ⑤試合Ⅳ白 (3 組) vs 白 (4 組)	4 全員が楽しめるようにルールを工夫する ・ドリブルの有無、守りの人数、特別ルールなど 5 チームで作戦を話し合い、練習をする 6 工夫したルールでゲームを行う ①試合Ⅰ赤 (3 組) vs 赤 (4 組) ②試合Ⅱ白 (3 組) vs 白 (4 組) ③試合の動画を見て、感想を伝え合う ④試合Ⅲ赤 (3 組) vs 白 (4 組) ⑤試合Ⅳ白 (3 組) vs 赤 (4 組) ⑥試合の動画を見て、作戦を話し合う。 ⑦試合Ⅴ赤 (3 組) vs 白 (3 組) ⑧試合Ⅵ赤 (4 組) vs 白 (4 組)	4 全員が楽しめるようにルールを工夫する ・ドリブルの有無、守りの人数、特別ルールなど 5 チームで作戦を話し合い、練習をする 6 工夫したルールでゲームを行う ①試合Ⅰ赤 (3 組) vs 赤 (4 組) ②試合Ⅱ白 (3 組) vs 白 (4 組) ③試合の動画を見て、感想を伝え合う ④試合Ⅲ赤 (3 組) vs 白 (4 組) ⑤試合Ⅳ白 (3 組) vs 赤 (4 組) ⑥試合の動画を見て、作戦を話し合う。 ⑦試合Ⅴ赤 (3 組) vs 白 (3 組) ⑧試合Ⅵ赤 (4 組) vs 白 (4 組)	
	20							
	30							
	40							
45								
評価の重点	知・技		①ゲームの行い方【観察】	②パス、シュート【ICT】	③ボールを持たない時の動き【観察・ICT】			
	思・判・表					①ルールを選択【観察】	②伝える力【観察・ワークシート】	
	学・人	⑥場や用具の安全【観察】	②ルールやマナー【観察】	③役割を果たす【観察】	①積極的な取組【観察】	⑤仲間との認め合い【観察】	④勝敗の受け入れ【観察】	
準備物	バスケットボール (人数分)、ビブス 30 枚、フラフープ 8 本、カゴ 8 こ、タブレット (人数分)、プロジェクタ、スクリーン、掲示物							

5 本時の学習（4／6）

（1）本時の目標

ボールを持たないときの動きについて、お手本となる児童や動画を見ながら考えたり、タスクゲームに取り組んだりして、ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動することができるようにする。
(知識・技能)

（2）本時の評価項目

ボールを持たないときの動きについて、お手本の児童や動画を見ながら考えたり、タスクゲームに取り組んだりして、ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動することができる。
(知識・技能)

6 指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」 状況と判断される 児童への手立て
はじめ 10分	1 準備運動、サーキット、準備を行う。 2 基礎感覚作りの運動を行う。 ①腰まわし10回 ②ひざ回し10回 ③8の字回し10回 ④その場ドリブル20回 ⑤ランニングドリブル20回 ⑥チェストパス人数×5回 ⑦バウンズパス人数×5回 ⑧シュート（時間まで） 3 本時の活動を知り、自分のめあてを立てる。	<ul style="list-style-type: none"> チームごとに準備を行わせることで、待ち時間を減らし運動量を確保できるようにする。 単元を通して、同じ基礎練習を行わせることで運動量の確保に加え、技能の向上が図れるようにする。 自分の課題を捉えたためあてを紹介することで、児童一人一人が自分に合っためあてを立てられるようにする 		
なか 30分	4 ボールを持たないときの動き方の練習を行い、ポイントを考える。 ①タスクゲーム「10秒2vs1」を行う。 ②友達の様子や動画を見て、ポイントを考える。 ③ポイントを意識して、「10秒2vs1」練習を行う。 (ポイント) ・横に動く ・空きスペースに動く ※パスのタイミングを考える。	<ul style="list-style-type: none"> パスに特化した練習を行わせることで、ボールを持たないときの動きについて焦点化して取り組めるようにする。 「10秒以内にパスがもらえたら勝ち」というタスクを入れることで、ゲーム感覚で練習ができるようにする。 横に動いたり、空きスペースに動いたりしている児童をお手本にして、その児童の動きの良さを考えさせることで、「ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動する」というポイントに自分たちで気付けるようにする。 ポイントをキーワード化することで、周囲の声かけや指導者の評価を行いやすくする。 	○ ボールを持たないときの動きについて、お手本の児童や動画を見ながら考えたり、タスクゲームに取り組んだりして、ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動することができる。 (観察)	「ここに動くといいよ」と実際に動きを体験させたり、ゲームを見ながら「○○さん（得意な児童）はどこに動くかな？」と尋ねたり個別に指導を行う。またチームの仲間から動きの指示を出してもらうように声をかける。

	<p>5 前時の課題を生かしてルールを工夫し、ゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハーフコート ・ ドリブルなし ・ 守りを一人少なくする ・ チーム全員がゴールを決めたらボーナスポイント <p>① 試合Ⅰ 赤 (3組) vs 赤 (4組) ② 試合Ⅱ 白 (3組) vs 白 (4組) ③ 試合の動画を見て、話し合う ④ 試合Ⅲ 赤 (3組) vs 赤 (4組) ⑤ 試合Ⅳ 白 (3組) vs 白 (4組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドリブルなしで行うことでパスを行わないといけない状況をつくり、チームで協力して得点できるようにする。 ・ 守りを一人少なくすることで、練習した動きを行いやすくする。 ・ ボーナスポイントを取り入れることで、できるだけ全員がシュートを打てるようにする。 ・ 音楽とスクリーンを使用することで、教師の指示がなくても試合の入れ替え等が行えるようにし、運動量の確保を図る。 ・ 試合Ⅱと試合Ⅲの間に動画を見ながら、次の試合に向けての作戦タイムをとることで、活発に話し合いが行われるようにする。 	<p>○ ボールを持たないときの動きについて、ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動することができる。</p> <p>(ICT)</p> <p>【Aの例】</p> <p>ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように素早く移動することができる。</p>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>6 片付けを行う。</p> <p>7 ふり返しを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートに答える。 ・ 自分のめあてに対するふり返しを行う。 ・ 課題解決につながった友達との対話を記録する。 <p>8 まとめを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボールを持たないときは、ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動するというにふれながら振り返っている児童のふりかえりを取り上げ、本時のポイントを確認する。 ・ 課題解決につながった友達との対話を記録させることで、対話的に学習を進めることを児童に意識づける。 ・ 次時から、チームでのめあても立て、試合数を増やしていくことを伝え、次時への意欲を高める。 		